

長野高校 2 学年 SGH 通信	かかわ 五世界に繋る	第 2 号 (通算 28 号) 2016 年 5 月 6 日 (金)
------------------------	----------------------	---------------------------------------

～総合②を終えて～

課題研究 3 つの観点…課題研究は個人が主体のチーム研究です。

- 【Ⅰ】 探究者たれ!!! (科学者であり、研究者である)
- 【Ⅱ】 リーダーシップとフォロワーシップ (引っ張る力と支える力)
- 【Ⅲ】 自分の意見を持つ。→人の話を聞く→自分の価値観を変える勇氣。



少し時間がかかりましたが、ようやく班編成、テーマ設定の見通しが立ったように感じています。約半年かけて課題研究に取り組む中で大切なことのひとつが“課題を発見すること (テーマ設定)”です。これができれば研究の半分は進んだようなものです。

これからはFWにむけて先行研究や現状把握、調査・研究を行いましょ。まず“既に解っている (研究された) こと”についての知識が無いと、“解らない (研究する価値がある) こと”が判別できません。身の回りにある大半の事柄は、世の中の誰かが興味を持って既に調べています。また、自分が欲しいと思うような新しい物や工夫は誰もが欲しいと思っていて、商品価値があるなら以前から研究開発を続けている人がいるでしょう。そう考えると、独創性ある研究のタネを見いだすことは難しいような気がしますが、日本では少子高齢化が進んでいますが世界での人口は爆発的に増加しています。国際社会は複雑化し、人間生活も多様化していきますから、解決すべき問題も山積み増量中でしょう。皆さんには視野を大きく広げて“研究のタネ探し”をしてもらいたいと思います。そして研究というからには、高校生の課題研究も大学生の卒業研究もノーベル賞受賞者の研究も、みな等しく同じ土俵で世に問われるのだという認識でいて下さい。あなた方の研究は社会に向けて発表され、社会の基準で評価を下されるのです。

ところで、ワークシート②は提出しましたか? 担任と係の検印をもらって返却してもらってください。ワークシートは記入したら金鵒ファイルに保存しておくこと。ppt の発表や論文を書くときの貴重な資料となります。例えば、ワークシート①②は研究動機にあたります。

～5月28日(土) 3時限は「米国リーダー研修報告会」～

目的: 3月に実施した米国リーダー研修の参加者が研修の様子を報告し、1, 2年生全員が、各自の今後に生かすためにその成果を共有する。

5月28日(土)、公開授業の3時間目は「総合的な学習の時間」とし、3月に実施した「米国リーダー研修」の参加者による報告会を小体育館で行います。

当日は公開授業で、保護者、中学生、一般参観者で校内が混み合っており、小体育館までの移動に時間がかかることが予想されます。その一方、午後にはPTA総会が予定されており時間の余裕がありません。前日のSHRでSGH係から移動の仕方と並び方の説明があります。時間内に移動・整列が完了するよう、各自がしっかりと聞いて理解しておいてください。

今後の予定

- 5月6日(金) 課題研究班長会(ランチミーティング=2F大会議室)
- 5月17日(火)・18日(水) 総合③ FW I に向けての準備、FW 先の調査
- 5月20日(金) FW I (テスト最終日)

<FW I の手順> ←変更あり、班長会で連絡します。各自確認を。

<事前>

班長が受け取るもの「依頼書」、封筒(2)、便箋、礼状例=FWへ行く数の分だけ持っていく

- ① フィールドワーク先を決める。
- ② アポイントメントを取る。(依頼電話)
- ③ 個人ごとに「FW計画書」を書く。
- ④ FW先ごとに個人の計画書をまとめて、代表者は提出用計画書を作成する。
- ⑤ FW先ごとに「依頼書(下書き)」を書く。 *②～⑤はほぼ同時並行。
- ⑥ 班長またはFW代表者は班担当の先生に④⑤を提出する。
(班担当の先生は依頼書入力、プリントアウト、依頼電話)
- ⑦ FW代表者は「FW計画書(提出用)」(検印確認)、「依頼書(清書)」を班担当の先生から受け取る。
- ⑧ FW代表者は上記2点と宛先を書いた封筒をそろえてSGH事業推進室に提出する。

<事後>

- ① 翌日、全員が「FW報告書」を班担当の先生に提出する。
- ② FW先ごとに3日以内に「礼状」を書き、宛先を書いた封筒を添えてSGH事業推進室に提出する。
・礼状については班長または代表者が例文を参考にペンで書く。
・5月23日(月)に宛先を書いた封筒と一緒に封をせずにSGH事業推進室に提出する。

平成28年度 2学年 進路(SGH)講演会「地域を見つめ世界に繋る」

- ・自分たちがよりよく生きる方法だけでなく、社会で困っている人の生活をどのように快適なものにしていくか考え、身近な課題を解決していく方法を考えることが大切だと気づかされた。そのためには、様々な視点に立ち、地域の課題を発見することが今の私たちにとって必要だと思う。また、人とのコミュニケーションの中で生まれたアイデアに勝るものはないと感じた。これからSGHの研究をしていく上で、たくさんのアイデアが必要になってくると思うが、自分たちだけで決まった枠組みの中で考えるのではなく、様々な人とコミュニケーションを取りながら進めていきたい。
- ・「design for all」の「all」をどのようにとらえるかによってユニバーサルデザインの価値観が全く異なってくるという言葉が本当に印象に残った。ユニバーサルデザインというと、使う人(特に障がい者や)のことを考えているものだ。しかし、それでは足りない。本当のallとは何なのか。そして、たとえ答えが出てこなくても、それを考えるところに意味がある。今日、先生のお話をお聞きして、先生の視点の鋭さに感動した。どこからそんなアイデアがわくんだろうと不思議に思うくらい鋭かった。
- ・「お金を稼ぐこと」に関することが多く挙がっていた。ユニバーサルデザインってそうゆうお金のために考えられるものなのかと少し不思議に思った。グローバルな視点につながることも学べたが、結局いかに経済活動を行うかに執着している気がした。



赤池氏講演会 時間いっぱい熱のこもった講演でした